

ゴルフは生きる希望

1セット4万円弱で初優勝

《第22回ハンディキャップ競技九州大会～JGA杯J-sys選手権予選・男子の部》

ネット65（ハンディ7、グロス72）

上原 一男（白木、57歳）



サラリーマンゴルファーのお手本のようなプレーヤー。ゴルフは会社の友人と一緒に20代後半から始めた。競技ゴルフは中高校生の頃に熱中していた卓球に似た「ドキドキ感がたまらない」と今年で15年になる。ただ、クラブなどにはこだわりはなく、フルセット4万円以下という。ボールも1ダース1000円程度。今大会も練習ラウンドはせずに、ぶっつけ本番で臨んだ。日々の練習はホームコースの白木GC（大分）で仕事帰りの夕刻にアプローチやパッティング

を行う。練習場には行かず、週1回の日曜日のラウンドは欠かさない。ゴルフを真正面に捉え「もう、やみつき。ゴルフをやめたら生きる希望がなくなる。どうしていいか分からなくなるのでは」とまで言う。実にゴルフ愛に満ち溢れている。

そんな上原だけにプレーも1打1打おろそかにはしない。この日はインスタート。10、11番で連続ボギーを叩きながらも、その後の7ホールをパーでしのいで前半は38。後半のアウトも1番ボギーでスコアを1つ落としたものの、4、6、9番でバーディーを奪ってグロスパープレーの72だ。6番ショート（144ヤード）では71での第1打がカップをかすめて、もう少しでホールインワンの楽々バーディー。「今日はショットが良かった。ほとんどパーオン。一緒に回ったハンディ0の人（成清孝信、八女上陽）を見て『すごいなあ。こんなふうになりたいなあ』と思った」と4度目の出場では優勝の他にも今後の糧となる収穫もあった。

183cm、65kg。京都で生まれて、中高時代は鳥取で過ごした。21歳から大分に住む。現在は在宅酸素の「帝人ヘルスケア㈱」に勤務する。全国大会は名門と言われる霞ヶ関GCで開催される。「簡単には回れないコースなんでしょ。休みが取れるかどうか、会社に相談してみます」。優勝したらしたで、また別の悩みが顔を出す。サラリーマンゴルファーの苦勞は絶えない!?

2位にサヨナラ

ソフトで鍛えたパワーで初V

《第22回ハンディキャップ競技九州大会～J

GA杯J-sys選手権予選・女子の部》

ネット67（ハンディ8、グロス75）

小林 麻実（ミッションバレー、56歳）



【写真は初優勝の小林(左から2人目)を祝福するミッションバレーのメンバーたち】

ネット67で3選手が並んだ。小林のほかに山田聖子(ワールド)と花山悦子(ミッションバレー)。優勝の行方は大会規定のマッチングスコア方式に委ねられたのだが、笑ったのは小林だった。「いつも2位ばかりで…。勝てて良かった。パターのおかげ。パットが入ってくれた。OBがなかったのも良かった。私は『OBの鬼』だから」と56歳の小林がはしゃいだ。

グロスは1バーディー、4ボギーの75。3パットのボギーが2個あったものの、小林が「パットのおかげ」と振り返ったのはパーオンした後、1~2mも残ったパーパットを外さなかったのが勝因につながったという。

ドライバーの平均飛距離は220~230ヤード。「若い頃はもっといっていた」というパワーが武器である。それは中高時代のソフトボールで培われた。ポジションは投手で九州女子高時代には全国大会に出場したこともある。「頭が悪いけん、ソフトで高校に行くしかなかった」と謙遜する。ゴルフは30代の頃にはコンペなどに参加し、50歳から本格的に競技に取り組んだ。その年、ミッションバレーGCの会員権を購入したのだが、どうしたかというところ「2年間、500円玉貯金をして、30万円をためて持って行った。随分迷惑だったと思う」と小林は苦笑いを浮かべた。

ミッションバレーGCでは毎週木曜日にレディス研修会を実施しており、お互いが切磋琢磨して技術アップに余念がない。「おばさんが多いけど、みんな盛り上げていこう、と頑張っている」。小林の肩書は福岡県直方市にある土木建築業のトップ。パワフルで元気溢れる社長さんが霞ヶ関で胸を張って歩く。

《福岡サンレイクGC》

